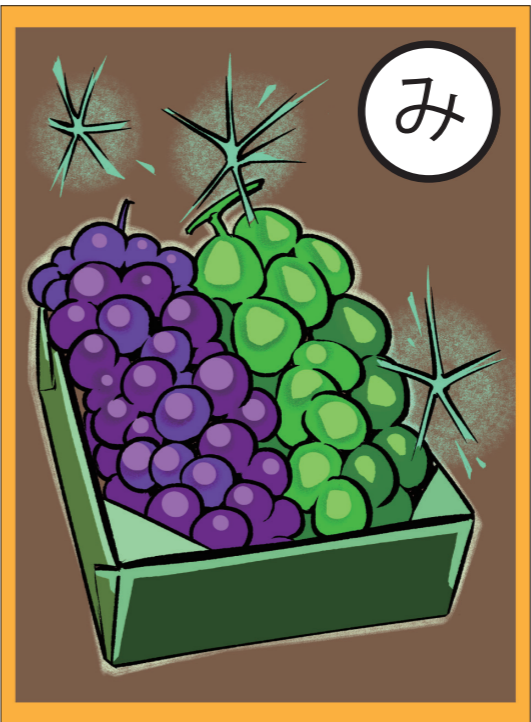




ま
ちのなか
青く輝く
回転灯

① 青色防犯パトロール隊（通称青パト）とは、青色の回転灯を装備した自動車を用いて行われる防犯パトロールのことです。太子町でも、「太子の子どもは地域で守る」を合言葉に、地域のボランティアが犯罪抑止・事故防止のため、青パト活動を行っています。太子町がより住みやすい、安全なまちとなるように、今日も青パトはまちを巡回しています。



み
の
実る秋
ぶどうの粒は
宝石に

② 太子町では古くからぶどう栽培が盛んに行われ、町の特産品となっています。食べやすいデラウェア、粒の大きい巨峰、皮ごと食べられるシャインマスカットなど、豊富な種類があります。収穫時期に実を太らせて美しく色づいたぶどうはまるで宝石のようです。大切に育てられた、甘く美しいぶどうは太子町の自慢の特産品です。



む
向かいから
太子を見守る
西方院

③ 西方院は、日本最初の尼寺で、聖徳太子の乳母であった月益姫、日益姫、玉照姫の3人が、剃髪して仏門に入り、太子の遺髪を納めて冥福を祈ったのが始まりと伝えられています。聖徳太子御廟がある歡福寺の向かいに建てられており、1400年前から3人の乳母たちが太子を見守り続けているのです。



め
目をつぶり
古墳の森に
昔をおもう

④ 太子町には、数多くの天皇・皇族クラス古墳が集中しており、「帯は磯長谷古墳群と呼ばれています。また、エジプトの「王家の谷」になぞらえて「王陵の谷」とも呼ばれ、その中心となるのが梅鉢御陵と呼ばれる、敏達・用明・推古・孝徳天皇陵と聖徳太子御廟です。古墳から出土する様々な副葬品は、埋葬者のことや当時の生活の様子を解明する手がかりとなっています。古墳群の森に入り目をつぶると、昔の情景が浮かんでくるようです。



も
餅屋橋
餅をもらって
伊勢参り

⑤ 孝徳天皇陵と大道旧山本家住宅を下ると、石碑が建っています。道標を兼ねたこの石碑には、「餅屋橋」と刻まれており、かつてこの橋のたもとに餅屋があったことから名づけられたと伝えられています。江戸時代に庶民の間で伊勢参りがブームとなり、伊勢をめざした人が険しい竹内峠の途中で行き倒れになることを恐れ、餅の振る舞いをしたとされています。